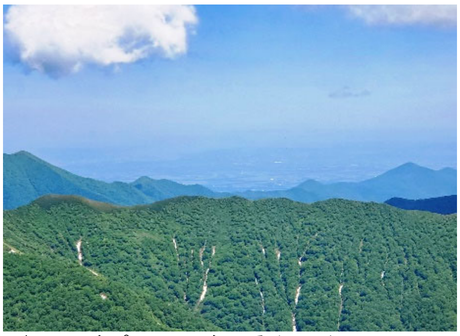
森林（もり）の話

採用二年の若手職員のコーナーです

第19話
日高北部森林管理署
大室　諒太

日高町で生活して早一年が経ちました。今回は私の身近にある、日高山脈について紹介します。日高町は、日高振興局管内北部の日高山脈の麓に位置しており、急峻な山々に囲まれています。一方で、日高山脈を挟んで東隣りには、真っ平らな十勝平野が広がっています。なぜ、こんなにも地形が違うのでしょうか。

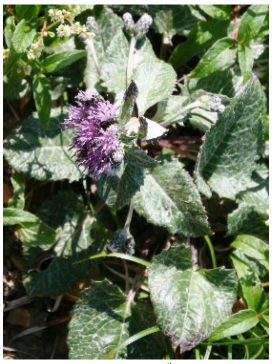


幌尻（ぽろしり）岳山頂から見る十勝平野と日高山脈

この理由は、北海道の成り立ちが関わっています。北海道の東部と西部は、大昔は北米プレートとユーラシアプレートの上に離れて乗っていた陸地でした。今から約４，０００万年前に、それらの陸地同士が衝突し現在の北海道の土台が作られました。そして、今から約１，３００万年前に十勝側の北米プレートが、日高側のユーラシアプレートの上に乗り上げながら衝突し、現在の急峻な日高山脈と平らな十勝平野ができました。

右奥は幌尻岳 左の戸蔦別（とったべつ）岳周辺はかんらん岩が露出

プレートが乗り上げながら衝突したことで、地中深くにあるマントルの一部が地上へ突き上げられました。そのため日高山脈では、マントル由来の岩石であるかんらん岩や蛇紋岩などが地上にむき出しで見られる箇所が多くあります。それらの岩石には、植物の生育を阻害するマグネシウムや、有毒なニッケル等の重金属を含み、普通の植物が生育しにくい土壌となります。一方で、その様な土壌に適応し、特異的に生育する植物を蛇紋岩植物と呼んでおり、母岩がかんらん岩や蛇紋岩の場所に共通して国内で広く分布する種もいれば、山域ごとに生息が限られ固有種となっている種もいます。日高山脈には、日高山脈やその周辺の限られた場所に分布する蛇紋岩植物が多く生育しています。



ユキバヒゴタイ

蛇紋岩植物の１つに、ユキバヒゴタイという植物があります。この植物は、日高山脈と夕張岳に分布しており、かんらん岩や蛇紋岩が風化した砂礫の風衝地に生息しています。開花期は夏で、管内では北戸蔦別岳から戸蔦別岳の稜線で見ることができます。

ヒダカトリカブト

最後に、日高山脈周辺にのみに分布するヒダカトリカブトを紹介します。この植物は、沢筋などの湿った環境で見られます。エゾノホソバトリカブトというとても似ている植物があり、雌しべに毛があるかどうかを確認することで種を特定することができます。本種には、基本的には毛が無くあっても疎らです。トリカブトの仲間には毒があり、アイヌの人たちは、根から毒を抽出し、矢に塗り付け狩りに使っていたようです。

日高山脈には、手付かずの自然が多く残り、様々な貴重な生き物が生息しています。大地の成り立ちを感じに、一度は訪れてみてはいかがでしょうか？